

CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要			■ 外観	
建物名称	ウイラ九品寺増築工事	階数		
建設地	熊本市中央区九品寺3丁目9番3の	構造		
用途地域	第二種住居地域、近隣商業地域	平均居住人員		
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間		
建物用途	病院	評価の段階		
竣工年	2013年3月 予定	評価の実施日	2012年9月5日	
敷地面積	1,646 m ²	作成者	伊東 正太郎	
建築面積	612 m ²	確認日	2012年9月7日	
延床面積	2,413 m ²	確認者	吉永 拓郎	

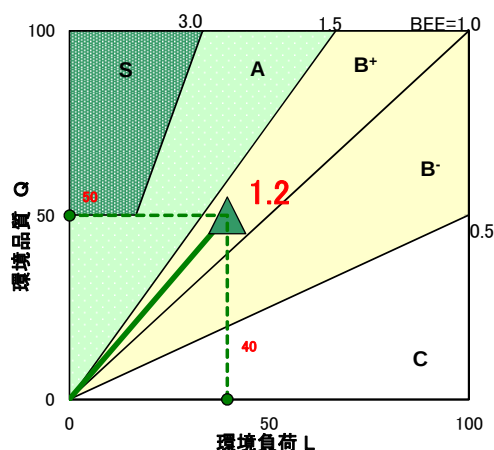
1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



BEE = 1.2

$$\text{BEE(環境効率)} = \frac{Q(\text{環境品質})}{L(\text{環境負荷})}$$



■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)



排出率

85%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



評価点

83

評価点

【重点事項1】温室効果ガス排出量削減の推進

82.0

【重点事項2】安全安心で暮らしやすい社会の実現

72.5

【重点事項3】県の地域資源の有効活用と保全

90.0

【重点事項4】循環型社会の実現

86.2

■ 熊本県重点評価基準

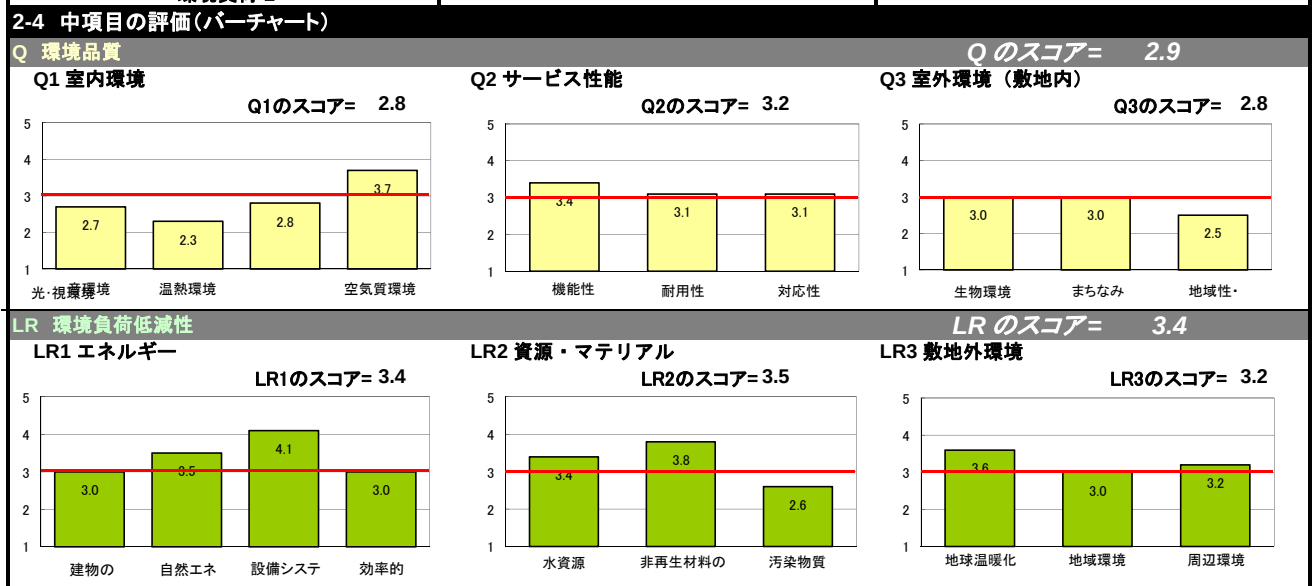
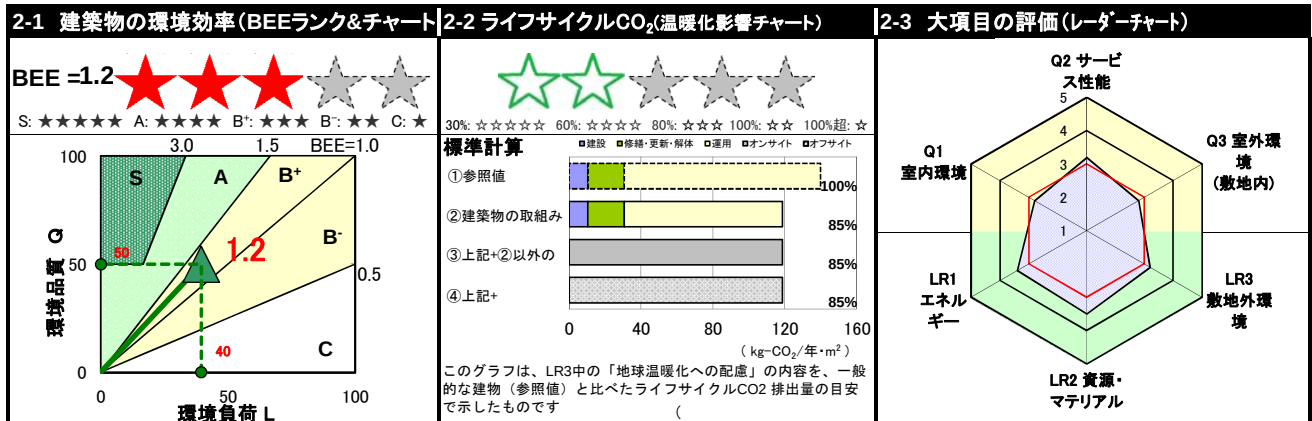
判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	★★★★★
80点以上100点未満	★★★★
60点以上80点未満	★★★
40点以上60点未満	★★
40点未満	★

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE®熊本《新築》【評価結果】

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2010年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	ウイラ九品寺増築工事	階数	地上5階	
建設地	熊本市中央区九品寺3丁目9番3の	構造	S造	
用途地域	第二種住居地域、近隣商業地域	平均居住人員	54 人	
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	4,500 時間/年	
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2013年3月 予定	評価の実施日	2012年9月5日	
敷地面積	1,646 m ²	作成者	伊東 正太郎	
建築面積	612 m ²	確認日	2012年9月7日	
延床面積	2,413 m ²	確認者	吉永 拓郎	



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-新築(簡易版)2010年版
ヴァラ九品寺増築工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版) 2010年版

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

スコアシート		実施設計段階						
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
				評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								2.9
Q1 室内環境					0.40			2.8
1 音環境				2.8	0.15	2.6	1.00	2.7
1.1 騒音		共用部: 50dB、住居部: 40dB		3.0	0.40	4.0	0.40	
1 室内騒音レベル				3.0	1.00	4.0	1.00	
2 設備騒音対策				-	-	-	-	
				-	-	-	-	
1.2 遮音		共用部: 46.4dB、住居部: 46.4dB		3.6	0.40	2.2	0.40	
1 開口部遮音性能				3.0	0.40	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能				4.0	0.60	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	1.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	1.0	0.20	
1.3 吸音				1.0	0.20	1.0	0.20	
2 温熱環境				2.6	0.35	2.0	1.00	2.3
2.1 室温制御				3.0	0.50	3.0	0.50	
1 室温				3.0	0.38	3.0	0.57	
2 負荷変動・過渡制御性				-	-	-	-	
3 外皮性能				3.0	0.25	3.0	0.43	
4 ゾーン別制御性				3.0	0.38	-	-	
5 温度・湿度制御				-	-	-	-	
6 種別制御				-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮				-	-	-	-	
8 監視システム				-	-	-	-	
2.2 湿度制御				1.0	0.20	1.0	0.20	
2.3 空調方式				3.0	0.30	1.0	0.30	
3 光・視環境				2.7	0.25	3.1	1.00	2.8
3.1 昼光利用		ホール: 1.9%、居室: 1.2%		3.0	0.30	3.6	0.30	
1 昼光率				3.0	0.60	4.0	0.60	
2 方位別開口				-	-	-	-	
3 昼光利用設備				3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策				2.0	0.30	3.0	0.30	
1 照明器具のグレア				-	-	-	-	
2 昼光制御				2.0	1.00	3.0	1.00	
3 眩り込み対策				-	-	-	-	
3.3 照度				3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境				3.6	0.25	3.8	1.00	3.7
4.1 発生源対策		F☆☆☆☆の採用		4.0	0.50	4.0	0.63	
1 化学汚染物質				4.0	1.00	4.0	1.00	
2 アスベスト対策				-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等				-	-	-	-	
4 レジオネラ対策				-	-	-	-	
4.2 換気		0.123(1/10以上)		2.0	0.30	3.6	0.38	
1 換気量				3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能				-	-	5.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮				1.0	0.50	3.0	0.33	
4 給気計画				-	-	-	-	
4.3 運用管理				5.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視				-	-	-	-	
2 喫煙の制御		建物全体が禁煙		5.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.2
1 機能性				3.0	0.40	4.2	1.00	3.4
1.1 機能性・使いやすさ		個室10㎡以上		3.0	0.40	5.0	0.60	
1 広さ・収納性				-	-	5.0	1.00	
2 高度情報通信設備対応				-	-	-	-	
3 バリアフリー計画				3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性				3.0	0.30	3.0	0.40	
1 広さ感・景観				-	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース				-	-	-	-	
3 内装計画				3.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務				-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性				3.1	0.31	-	-	3.1
2.1 耐震・免震				3.0	0.48	-	-	
1 耐震性				3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能				3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.2	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		GL工法 PB=12.5mm(20年)		5.0	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		B以上を使用、E使用無し		5.0	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.23	-	-	

2.3 適切な更新				-	-	-	-
2.4 信頼性			3.2	0.19	-	-	
1	空調・換気設備	地上設置、非常用発電設備	3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
3	電気設備		4.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			3.3	0.29	2.9	1.00	3.1
3.1 空間のゆとり			3.4	0.31	2.8	0.50	
1	階高のゆとり	共用部:0.24、住居部:0.20	3.0	0.60	2.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		4.0	0.40	4.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.6	0.38	-	-	
1	空調配管の更新性	構造部を痛めることなく、修繕・更新できる 仕上材を痛めることなく、更新・修繕できる。 仕上材を痛めることなく、更新・修繕できる。	3.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性		4.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性		5.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性		5.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.8
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.4
1 建物の熱負荷抑制			3.0	0.30	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用			3.5	0.20	-	-	3.5
2.1 自然エネルギーの直接利用		太陽光発電設備	3.0	0.50	-	-	
2.2 自然エネルギーの変換利用			4.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化		LED照明、高効率空調の採用	4.1	0.30	-	-	4.1
集合住宅以外の評価(ERRによる評価)		ERR=18.3%	4.0		-	-	
集合住宅の評価			4.0		-	-	
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.5
1 水資源保護			3.4	0.15	-	-	3.4
1.1 節水		節水型・省水型設備の採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1		雨水利用システム導入の有無	3.0	0.67	-	-	
2		雑排水等利用システム導入の有無	3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.8	0.63	-	-	3.8
2.1 材料使用量の削減		再生クラシャラン、集成材、タイル 10%程度 軽天、軽鉄間仕切、GL工法	2.0	0.07	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.24	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用			5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			4.0	0.05	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			5.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			2.6	0.22	-	-	2.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			2.5	0.68	-	-	
1		消火剤	-	-	-	-	
2		発泡剤(断熱材等)	2.0	0.50	-	-	
3		冷媒	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		高効率の設備機器を採用	3.6	0.33	-	-	3.6
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1		雨水排水負荷低減	-	-	-	-	
2		汚水処理負荷抑制	3.0	0.33	-	-	
3		交通負荷抑制	3.0	0.33	-	-	
4		廃棄物処理負荷抑制	3.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1		騒音	3.0	0.33	-	-	
2		振動	3.0	0.33	-	-	
3		悪臭	3.0	0.33	-	-	
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1		風害の抑制	3.0	0.70	-	-	
2		砂塵の抑制	3.0	-	-	-	
3		日照障害の抑制	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1		屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	5.0	0.70	-	-	
2		屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30	-	-	

CASBEE®熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

- ・既存部分（デイサービスセンター）と連携した地域に開かれた高齢者の為の複合施設として計画した。

Q1 室内環境

- ・外壁及び窓の性能強化（外壁に硬質ウレタンフォーム25mm、屋根には、硬質ウレタンフォーム50mmの断熱材を施工。窓はペアガラスを採用した。

Q2 サービス性能

- ・内装を特別な材料を使わず、一般的なPB下地クロス仕上げ、床にSKフロー（重歩行用長尺シート）とし、維持管理しやすい材料とした。

Q3 室外環境（敷地内）

- ・北東の角から東側市道沿いに緑化を計画した。
- ・屋根形状の一部を陸屋根形式から勾配屋根（陶器瓦平板瓦葺き）とした。

LR1 エネルギー

- ・屋上部分に太陽光発電設備システムを備えた。
- ・高効率照明器具（LEDタイプ及び省エネ出力初期補正型器具）を採用した。
- ・インバーター制御方式のエレベーターを採用した。

LR2 資源・マテリアル

- ・アスファルト舗装だが、一部に緑化ブロックを採用し、雨水の流出抑制を考慮した。

LR3 敷地外環境

- ・近商地域部分は、まだ階数を伸ばすことも可能だったが、4階に勾配屋根を架けることにより高さを抑えた計画とした。

その他

特になし

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 ヱラ九品寺増築工事

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v1.3)_kmt2011(v1.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		82.5
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				82	0.40	32.80
Q1-2.1.3	外皮性能	3.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.2	昼光制御	2.0	0.05			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	3.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.5	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.1	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				72.5	0.20	14.50
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				90	0.20	18.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	4.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				86.2	0.20	17.24
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.2	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	5.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20

※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数